

聖霊降臨第 18 主日礼拝説教要旨(10 月 3 日)

『あなたに良くするために』 申命記 8:7-18 早川 真牧師

神はイスラエルの民に繰り返し語られ、命じられましたが、その本質はたった一つでした。それは神を神とするようにとの戒めでした。

クリスチャンはイエス・キリストを信じることによって、罪の赦しと永遠の命が与えられています。それはとてつもない恵みです。そして約束の地である天のみ国へ向かって地上の歩みを続けています。その中で神は日々天から必要なものを与えてくださっているにもかかわらず、自分の欲望ゆえに不平不満が出てきてしまうことがあります。そしてその根底には、自分を神としたい願望があります。

私たちは誰もが地上の人生において良いものを望んでいることと思います。それは決して悪いことではありません。地上の歩みにあつて良いものが豊かに与えられることは素晴らしいことです。しかしそれよりもっと素晴らしいことは、私たちが愛し、私たちの必要を満たしてくださる神と共にいることです。そして神が最も望んでおられることは、私たちに良いものを与えて下さる神ご自身を望むことです。

モーセは地上においては約束の地に入ることはできませんでしたが、天の国という約束の地において、カナンの地にまさる豊かな実りを目の当たりにしていることでしょう。クリスチャンもまた、その生涯の終わりにおいてたとえ実りが得られなかったかのように見えたとしても、モーセと同じように神が良くして下さるという確信を新たにしまいたいと思います。そして約束の地に入るその時まで、天においても地においても私たちに良くして下さるこの素晴らしい方と一緒にいられる、その喜びにますます目を開かれ、神をたたえて歩んでまいりたいと思います。